





記念式典

日時／平成24年2月23日(木)
場所／アパホテル名古屋錦

- 1) 開会の辞
- 2) 代表幹事挨拶
- 3) 40周年を迎えての回想
- 4) 来賓祝辞
- 5) 記念講演
講師：横田悦二郎 氏
演題：「グローバル経済下における日本の金型産業
～中小企業の海外展開はどうあるべきか?～」
- 7) 閉会の辞
- 8) 記念パーティ



ご祝辞

イーグル会40周年への祝詞

イーグル会が平成24年2月で40周年を迎えられ、その間若手経営、技術陣の皆様の研修研鑽の場として団結され、時代の変化を敏感にキャッチしながら各経営母体の発展に対して多大に寄与された事に対し、深甚なる敬意を表し金型工業会を代表してお祝いを申し上げます。

しかしながら平成23年度は地球受難の年と思われる程、大地震、大津波、台風、大洪水や円高、米国やEU財政危機等が国を問わず発生致し、たんに想定外だという言葉では片付けられない事態となりました。これらはすべて自然発生的なものではなく、地球上での人間の営みに対する地球の報復のようにも感じられます。我々金型産業も今までにない生存を問われる時代に直面しております。事業の経営はリスクとの向かい合わせで、経営者に舵取りを迫られていますから今こそ多事多難の中を切り抜けるには、若手経営者の柔軟なセンスとアイディアと実行力で展望を見出して欲しいと祈念しております。

今後ますます実りのある活動を期待申し上げます。



社団法人日本金型工業会

会長 上田勝弘

ご祝辞

イーグル会40周年のお祝い

イーグル会が平成24年1月で結成40周年を迎えられますこと、心よりお祝い申し上げます。支部会員企業の経営者育成の場として設立され、その役目を果たしてこられたことに敬意を表します。

会の名前に冠した「イーグル」は、鳥の王者とよばれ十字軍のイヌワシ、米国のハクトウワシなど昔から軍旗や紋章に用いられ、いつでも何事にも立ち向う積極性と強さの象徴です。

大激変する状況のなか、とりわけ厳しい状況に立たされている金型業界にあって、だからこそイーグル会が新しい物事に果敢に挑戦する原動力である若い心を思い起こすよう、交流を深め、ますます研鑽され、金型業界で活躍・成長されることをお祈り申し上げます。



社団法人 日本金型工業会 中部支部

支部長 **鈴木 政幸**

ご祝辞

イーグル会、40周年に寄せて

イーグル会の皆様、40周年を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。

私もイーグル会の卒業生であり、若き時代をほぼ同じような環境におかれた者同士で、さまざまな活動を行うことができたことは、今になっても大変貴重な時代であったように感じています。

歴史を重ね早40年を迎えたことを知るにあたり、私もそれなりの年をとったものだなど改めて感じております。

イーグル会のイーグルとは「良き一仲間（グル）」が語源であると私も先輩方々よりお聞きして承知している訳ですが、なるほど座学を始め、工場見学、海外研修、更には夜学と、私にとってはとても大切な時間をいただけたように思えてなりません。

発足当初からすれば社会環境のすさまじい変化とともに、わが金型業界のおかれた環境もずいぶんと様変わりをしてしまいましたが、よく言われることで環境の変化はまさに新しいチャンスの到来であると前向きに考え、若いゆえ損得をあまり考えずまとめることができることを強みとし、今後とも会の活動を続けていただけるよう心よりお願いを申し上げます。

今後ますます会が発展し50周年、60周年と迎えられることを祈念申し上げまして私のお祝いの言葉とさせていただきます。



社団法人 日本金型工業会 中部支部

副支部長 小出 悟

ご 祝 辞

イーグル会40周年おめでとうございます。

40年の時を刻み、イーグル会を維持してくれる現会員並びに既に卒業された元会員の皆様に心より感謝いたします。

40年前の皆さんは就学前、或いは、未だ誕生前でもあったのではと思います。よって、イーグル会の目的や何故誕生したのかをご存じでない方も居るのではと想像します。イーグル会設立時と今日とでは日本の金型産業を取り巻く環境も様変わりしてしまいました、40年前を理解して頂く為、簡単に当時の金型環境や会の生い立ちを記します。

日本の金型企業の多くは太平洋戦争後の復興と経済発展の歴史と共にスタート・成長したと私は考えます。

戦後起業した金型経営者に動機を伺うと「戦時下の飛行機工場でドイツ人技師からプレス技術・金型の重要性を教えられた」「軍隊で見た、様々なアメリカ軍からの捕獲武器が金型を用いて大量生産されている事を知った」「従軍、戦地から帰国した金型職人が自己の技能を生かした」「軍需工場で機械操作技術を学んだ」等々の起業理由を聞かされました、産業復興における金型の必要性を掴んでおられた感じを受けます。

昭和25年には朝鮮戦争が勃発、日本は韓国を支える欧米連合軍の兵站基地となり、軍用車両や多くの機器類の修理を担いました。この事をきっかけに自動車、工作機械をはじめ多くの機械機器の生産に欧米と日本企業間との技術提携が促進され、金型図を含む技術資料が続々と日本へ持ち込まれました。更に日本政府は戦後復興を促進させる機械工業振興策を次々に打ち出し、昭和32年11月には日本金型工業会が組織化され発足、戦後起業した方達の多くも会員へと参集します。

金型産業は国の経済成長と共に順調に発展します。初期の設備には戦後解体された軍需工場の放出機械、空襲の戦火をくぐった機械を修理した話等、多くが語られます。

昭和33年には牧野フライスはNCフライスを発表、40年にはマシニングセンターをと急速に加工機の技術革新が進み、やがてこれらも金型工場へも導入され始めます。このような環境化、世間では新時代・次世代の経営者教育の必要性が課題・ブームに成り、金型工業会西部支部に型青会が発足しました。

翌 昭和47年1月、日本金型工業会中部支部にイーグル会は誕生します。

当時の支部長は現会員の吉田正生君の祖父 吉田政一氏が務めておられ、多くの支部理事（戦後起業された現会員の祖父の皆さん）や会員の要望に設立決議され発足、今日に至ります。発会時会員の多くは皆さんのお父様方達による構成でした。

イーグル会は会員が次世代の経営者としての知識・素養を幅広く身に付ける事を第一目的に、規約は簡潔（後に定年制が盛り込まれたと聞きます）、会員資格は正会員・賛助会員の垣根を取り共に学ぶ、代表幹事は輪番制（10周年時に追加決定）と「平等」を原則としました。初期には複数の会員企業内において労働争議も発生し、その悩みの交換や弁護士を講師に対策の勉強会を開くなど、現在との隔世の感を覚えます。

金型産業の成長は、第1次オイルショック（昭和48年）により行政指導のモデルチェンジ自粛を受ける自動車関連金型の停滞を経験しますが、平成3年までは右肩上がりの成長を続け、平成3年の工業統計には生産高19,575億円の歴代最高額を記録します。業界では「質・量共に日本は世界一の金型産業国であり、日本の金型産業は永遠である」との声も上がったものです。

戦後の日本産業の急成長はアメリカ経済を「もの造りから知的産業へ・もの造りは海外へ」と産業構造を大変化させたとも言われます。同様に、日本の金型産業もアメリカの大量生産の道具でもある金型造りを弱体化させていたのかも知れません。

1台当たり部品が2万とも3万点とも言われる自動車は金型の最も大きな需要産業であります。私は地球上にて自動車産業（開発から生産までを有する国）と金型産業とを合わせ持つ国では、両者がその盛りの時代において相対で成長したように感じています。自動車は産業革命のイギリスにて動力は蒸気機関を背負って誕生し、19世紀末ドイツに渡り石化燃料エンジンに代わります、更に20世紀初頭にはアメリカ大陸にてフォードがベルトコンベアーを用い、流れ作業の大量生産を実現します。20世紀後半には日本車の時代と成り、21世紀に入ると韓国、更に中国が力を付け始めている歴史を辿っています。歴史を振り返ると金型も自動車と同様なグローバルな動きを示し、歴史の必然なのかと考えざるを得ません。発展途上国のGDP成長や為替価値の差、人口と消費購買力、ITや加工機の進歩、根底にあるグローバルコスト競争力が複雑に絡み、日本の金型もこれら要因に翻弄される時代に入った事も現実と受け止めねばなりません。

イーグル会会員の皆さんには、金型を核に、金型を取り巻く需要側産業の地球規模の動向を注視し、新鮮で広い視野、冷静な分析と迅速な行動力を磨き、皆さんの企業並びにイーグル会の次の10年への歩を進めて下さい。40周年にあたり期待申し上げます。



イーグル会 初代代表幹事

高 野 輝 雄

ご祝辞

イーグル会40周年記念祝辞

イーグル会設立40周年、誠におめでとうございます。

東部支部・天青会も来年で40周年を迎えることになり、共に今日まで歩んできた事に感謝を申し上げます。

40年前と現在とでは、産業・経済とも激変し、我々金型業界も大きな波に呑み込まれ、多くの仲間がこの業界を去っていきました。

また、今年は3月11日に東日本大震災が発生し、東北地方を中心に多大なる被害をもたらしました。震災後も、復興問題や放射能被害による問題等、我々日本人がかつて経験したことが無い大変な問題が起きています。

それに伴い、政治・経済・産業とこれから益々変化をしていく事でしょう。

このよう時期だからこそ、我々若手会は、型種や地域の壁を乗り越えて、本音の話し合いのできる友となり、将来の展望、今後の経営手段を勉強し、若手経営者の資質の向上を目指すことが何より大事だと思っています。

40年前を振り返りますと、高度成長期後半で1980年からのバブル期の真っ只中、世界経済が日本を中心に動いていた頃ですが、現在は、日本をとりまく環境も激変し、中国のみならず東南アジア全域に渡り産業の再編が起こっています。

また震災後、日本の産業は益々空洞化が進んでいますが、一方で、この様なグローバルな時代だからこそ、我々世代が日本の金型技術を世界にアピールするチャンスであると考えます。われわれ金型企業がこれまで培ってきた金型技術は世界一であり、我々の金型は世界に売ることができる、と自信を持って生きたいと思います。

そこで、天青会では、世界に通じる「ジャパnbrランド金型」確立に向け、金型工業会で推進する「JAPANブランド育成支援事業」に協力をしています。

最高級（トリプルA）金型の提供のみならず、ユーザーのかかえる問題や提案を解決する、+α（+プラスアルファ）のソリューション力を有する象徴として、「AAA+A トリプルエー・プラス・エー金型」のジャパnbrランド化に向け推進協力しています。

これからもイーグル会が天青会と情報交換等を通して、会員の方々の交流を促進し、会員の皆さんの向上へつながるよう、この難局の時期を乗り越え、5年10年とこれからも共に歩み続ける事を願います。

最後になりますが、イーグル会の皆様のご健勝、そしてイーグル会の益々のご発展を祈念致しましてご挨拶に代えさせていただきます。



社団法人 日本金型工業会 東部支部 天青会

会長 中野 誠

ご 祝 辞

イーグル会創立40周年おめでとうございます 需要は世界に、生産は最適地で

イーグル会が創立40周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。
世の中のありとあらゆる生産財、消費財を安定して高品質に低価格で生産するために金型は無くてはならないものです。自動車やテレビほか家電製品、医療関連製品、電池、日用品、航空宇宙関連製品まで、金属やプラスチック、ゴム、ガラスなどでできているほとんどの部品が金型で生産されています。金型は、日本の経済を支える基幹産業であり、日本が世界に誇る技術です。そのおかげで日本は先進国の仲間入りをすることができたと言えるでしょう。

しかし近年、韓国、台湾、そして中国など新興国の金型製作への取り組みが熱を帯び、金型製作技術も飛躍的に向上しています。日本に追いつこうと国を挙げて金型産業を支援し、大学でも金型を教えています。これは、国として優れた製品を生産するためのツールの一つである金型の重要性を十分認識しているからでしょう。日本でも日本金型工業会・上田勝弘会長の尽力もあって、ようやく大学に金型を教える学科ができるようになったところです。

イーグル会は、金型の将来を背負って立つ後継者が参加して、自ら工場見学や講習会など積極的に勉強し、経営スキルを磨く会として重要な役割を果たしています。完全な受注産業である金型産業の経営の難しさは計り知れません。そんな中、同業者や関連業界など様々な企業視察を頻繁に行うなど、刺激を求めた熱心な活動を展開しておられます。

将来を考えた時、日本の金型生産は決して楽観できるものではありませんが、無いわけではありません。むしろ、やり方によっては明るい未来、大きな果実が期待できるのではないのでしょうか。豊かさへの欲求は世界の全ての人を持ち合わせるものです。つまり、世界約70億の人々が生活の向上を望んでいます。発展を続ける中国をはじめとしたアジア地域や南米、さらにはアフリカなどをみていますと、必要とされる金型の量はますます増えると思います。

製品メーカーが需要地生産を進め、需要地に適した製品開発を進める中、その生産の効率化、最適コスト化、最適品質化を実現することに最も貢献できるのは金型産業ではないのでしょうか。某自動車メーカーの元専務も「生産工程トータルで提案して頂ける金型メーカーに期待する」とおっしゃっていました。イーグル会の皆さんが日頃の勉強・研究の成果を大いに発揮できる時代になっています。

金型需要は世界に、生産は最適地で・・・皆さまのますますのご活躍をお祈りいたします。金型新聞は皆様のお手伝いができるよう邁進いたします。

イーグル会そして会員の皆様のますますのご発展を祈念し、お祝いのことばとさせていただきます。



株式会社 金型新聞社

代表取締役 **吉田 定康**

ご祝辞

イーグル会40周年の祝辞

日本金型工業会中部支部イーグル会が創立40周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。会の発足以来、会員の皆さまが相互に研鑽を積まれたうえ、日々多忙の中、講習会や講演会、工場見学会などの諸事業を活発に推進してこられたことに対し、改めて敬意を表す次第です。

さて3月11日に発生した東日本大震災は被災地の東北地域だけでなく、日本全体に大きな影響を与えました。とりわけ、モノづくり業界では自動車や電機・電子機器といった分野の部品の供給ルートが寸断され、生産がストップするなど多大なダメージを受けました。しかし、関係企業の懸命な対応や工夫が功を奏し、早期の復旧を果たしたことは周知の通りです。

被災地の復興にはまだしばらく時間がかかりそうですが、復旧・復興の実現には“モノづくりの集結力”が必要です。長い年月、日本のモノづくりの根幹を担ってこられた金型業界は、まさにその集結力の要に位置する業界で、これまで以上に重要な役割を果たすことが期待されています。イーグル会の皆さまには、活動を通じて技術力に磨きをかけるとともに団結力を高め、金型業界全体の活力向上につなげていただき、日本のものづくり業界と被災地の復興に一役も二役もかっただきたいと思いをします。

最後になりましたが、貴支部ならびにイーグル会のますますのご活躍とご繁栄をお祈り申し上げます。



日刊工業新聞社名古屋支社

支社長 **立松 直樹**

ご 祝 辞

イーグル会40周年記念祝辞

2000年度に代表幹事を仰せ付かった折、9.11の直後の10月に、中国浙江省の視察にむかいました。

大都会のofficeやmansionだけでなく、当時造成され売りに出されていた、模具城（金型屋の団地）までが不動産投機の対象であり、視察の手引きをしてくれた地方のお役人にも、外国人に模具城の区画が売れば多額のリベートが落ちることなど、其の時は知る由もなく駆け抜けていきました。

Eagle会での10数年を思い起こせば、バブル崩壊後の金融恐慌に苛まれ、苦しさが増すばかりですが、解決策は未だ見つかりませんが、上記の中国と日本を過去と現在にずらしてみれば 苦しみの根源を見出す事はできます。仮に金型の適正価格を設定できるとすれば、今の日本の金型がそれより高くなる訳があります。逆に中国の金型が安くなる仕組みがあります。

日本の金型が高いのは；バブル崩壊後20年経っても不動産の価格が給与水準に比して未だ高止まりしている上にそのズレから生まれる不良債権処理が未だ終わらぬ為、相変わらず高い家賃や住宅ローンを払わねばならず、税金や学習塾の月謝が高いのも、お役人や塾の先生がやはり高い家賃や住宅ローンを払っているからです。

中国の金型が安いのはUSAの言うとうり人民元を安値で固定している上に、人を雇うて生産する観点からすれば種種の税負担年金負担を飛ばしていて国家全体とすれば摩訶不思議な事に国が株や不動産を売ってその飛ばしの穴埋めをしています。

足元で起こっている事も原因を知る為にはこの会の様な活動を通じ知見を広くせねばならぬ事を感じます。

また昨今の円高の脅威の基では、日本の輸出がすべてなくなってしまうかのようにですが、市場のessageは、輸出の1/3を止めろと云うもので全部なくなる訳でなく、あくまで強い2/3は残る訳です。

あくまで、神の見えざる手は均衡させる方向で働くわけで1/3輸出が減少すれば為替は適正化され、中国もいつまでも飛ばしを続けるわけにはゆかず、いつかは日中間の価格差も埋まると私は考え皆様にもその日まで研鑽を我慢ずよく続けて頂き、お互いによき日を迎えてもらいたいものです。

最後に私が考えていたEagle会の課題として、経営者のpersonalityの問題があります。金型製造の経営者の養成として難しいのは、a真面目に 物作りをするpersonalityと b取引の上で化かしあうpersonalityとが矛盾する所にあると思います。

Aの観点では、上手くやってもbのタヌキさんとキツネさんの化かしあいの世界で上手くやっている例はあまりなく、特に私がいる静岡県西部では問題です。

これを書いていると、この問題に正攻法で交渉術を述べられた神谷さん、飄々とすり抜けていった加藤さんの顔が浮かびますが、どちらも今にして思えば稀有の逸材にてなかなか私なんぞがまねのできないところがありました。今後この会からこんなsolusionと出してもらえば幸甚です。



イーグル会OB (株)セイキ工業

代表取締役 **三田 聡**

ご祝辞

イーグル会40周年記念祝辞

イーグル会が、記念すべき創立40周年を迎えられ、ここに記念誌が発行されますことを心からお祝いを申し上げます。

また、1971年の発足以来、イーグル会を興し、発展させてきて下さいました歴代の皆様方の御尽力に、深く敬意を表します。

次世代の経営者の研鑽の場として設けられたイーグル会ですが、今はもう会を卒業いたしました私も、この会にて、先輩方に目をかけていただき、経営に限らず多くのことを学ばせていただきました。時が経ち、今では私の娘が、イーグル会にて皆様にお世話になっております。

時間をかけて築かれた、イーグル会というネットワークはかけがいのないものだ実感しております。

創立40周年を一つの節目として、これまでの先達の御功績を踏まえ、これからもますます、イーグル会が次世代の経営者の研鑽場としての会であることを祈念いたしまして祝辞といたします。

イーグル会OB まこと金型(株)

代表取締役 長谷川 真彦